

五
日
記
續

最後のソロモン戦域戦没者追悼式

延岡

松谷さん(川)平和観音像前で戦友しのぶ



平和観音像に手を合わせる松谷さん(1月23日、今山の平和観音像前)

太平洋戦争の敵戦地だった南太平洋のアーヴィング島から生還した延岡市北川町の松谷裕次さん(86)は毎年1月23日、同市山下町の今山大師像前広場の平和観音像前で戦没者の追悼式を開いてきた。今年も同日、8回目の追悼式を開催したが、式辞で体調不良を理由に「今回で幕を閉じることにした」と述べた。今後は松谷さん一族が法要慰靈を毎年行うという。

追悼式はソロモン諸島戦域の戦死者を慰めるため開催された。松谷さんが建立した平和観音像の前で唱かれた。

葬風吹き子さぶ中東京や埼玉鹿児島などから約50人が出席。遺骨収集などを続いている全国ソロモン会の安田勝一郎会長(91)らも参列した。

まず施主の松谷さん

永遠の平和を願つて

松谷希次
式辞全文

本日、じよ今山大師境内の平和観音像前には、来賓ご遺族、戦友相撲、追悼式を執り行なうにあけ顔んで、英靈を仰ぎ上げます。

皆様と生死を共にして戦い、奉公足らずして生還した戦友もほとんど皆様の世界に旅立ちました。わざかに残れる者も、勵くに何かの手助けが必要となりております。私もその一人で、常に相手で、ようやく歩いておりました。

このようなことで毎年、さうの日に行なう。しかし、法要慰靈は後世に至り、もろ松谷一家で今まで通りの日時で行ないます。長い年の歴史をお許しあります。

そのためには往々を風化させないよう、街のあらわいをしておきたいと思います。

私は昭和16年3月1日、都城西部17部隊に志願兵として入隊。士官教育を終了し、18年1月1日付で陸軍伍長に任命しました。同年2月、充要員として南方原連の命を受け、8月2日、門司港を出港して9月3日ラバウルに上陸。より間隔、ジングルの戦闘訓練を実施して、自動火薬を用いたビル島に上陸



平成14年に建立した平和観音像



アメリカ人作家キングさんが取材

日本人の戦争体験を記録

100人の証言集出版を目指す

中、参列者は平和観音像に手を合わせて全員ソロモン会の安田会長が、戦没者を代表して全國ソロモン会の安田会長が、戦争は二度と繰り返してはならない。今後も世界平和のため、世代が、平和を享受し、ご英靈に感謝の誠を捧げることこそが、風化防止につなげるものです。在天の御靈のお見守りの中、永遠の平和を願って式辞いたします。

松谷さんは昭和62年、タロキナに戦没者したが、奇跡的に生還し、その後、自決の覚悟で、自分自身を殺すことを決意した。しかし、奇跡的に生還したが、心が複雑で、自分自身を殺すことを決意した。

松谷さんは、戦死した戦友たちに対して、「皆たる戦友たちに対する、悲惨な戦争を知らない世代が、平和を享受することができることに感謝の誠を捧げることにより、風化防止につながる」と話した。

今山の平和観音像前で開かれた被戦没者追悼式は、本社記者のほか、ソロモン諸島を建立するため開催された。松谷裕次さんは、建立した平和観音像の前で唱かれた。

葬風吹き子さぶ中東京や埼玉鹿児島などから約50人が出席。遺骨収集などを続いている全国ソロモン会の安田勝一郎会長(91)らも参列した。

まず施主の松谷さん

は、日本で回る。今回も、台湾で日本陸軍の爆撃機に乗っていた人、朝鮮の映画「硫黄島からの手紙」のアドバイザーを行なった。

松谷さんは、戦死した戦友たちに対する、「皆たる戦友たちに対する、悲惨な戦争を知らない世代が、平和を享受することができることに感謝の誠を捧げることにより、風化防止につながる」と話した。

松谷さんは、昭和62年、タロキナに戦没者したが、奇跡的に生還し、自分自身を殺すことを決意した。

松谷さんは、戦死した戦友たちに対する、「皆たる戦友たちに対する、悲惨な戦争を知らない世代が、平和を享受することができることに感謝の誠を捧げることにより、風化防止につながる」と話した。

松谷さんは